

SIT+AIT+KU+KMUTT+SUT+ITB+NTU gPBL :
アジアにおける強靱なインフラと持続可能性に関するワーク
ショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2024年9月17日 ～2024年9月26日	日本	芝浦工業大学 アジア工科大学院大学 カセサート大学 モンクット王工科大学 トンプリー校 スラナリー工科大学 バンドン工科大学 国立台湾大学	・土木工学科、 社会基盤学専攻 ・学部1年生、 学部2年生、 学部3年生、 学部4年生、 修士1年生、 修士2年生	【芝浦工業大学】 学生35名、学生バイト13 名、教員1名、職員1名 【アジア工科大学院大学】 学生24名、教員1名、職員1 名 【カセサート大学】 学生21名、教員5名 【モンクット王工科大学ト ンプリー校】 学生13名、教員1名 【スラナリー工科大学】 学生4名、教員1名 【バンドン工科大学】 学生23名、教員1名 【国立台湾大学】 学生13名、教員2名 ※計159名	稲積真哉 (土木工学課程)



図1 集合写真

芝浦工業大学豊洲キャンパスにおいて、「アジアにおける強靱なインフラと持続可能性」をテーマとしたグローバルPBLを開催した。本プログラムには、芝浦工業大学の土木系学生35名をはじめ、アジア各国からの参加者が集結した。具体的には、アジア工科大学院（AIT）から24名、カセサート大学（KU）から21名、モンクット王工科大学トンプリー校（KMUTT）から13名、スラナリー工科大学（SUT）から4名、バンドン工科大学（ITB）から23名、国立台湾大学（NTU）から13名の土木系学生が参加し、引率教職員を含む総勢159名による多国籍なチームが結成された。このチームは、異なる国や文化背景を持つ参加者が共同でプロジェクトに取り組むことにより、技術的知見の共有や文化的交流を深めた。

グローバルPBLの期間中、参加者は多様なイベントを通じて異文化体験を積み重ねる機会が提供された。日本文化を体験する浴衣ワークショップでは、参加者は日本の伝統衣装に触れることで国際交流が促進され、これにより異なる文化を理解し合う契機となった。このような文化交流は、技術的な議論だけでなく、コミュニケーションを円滑にする効果も生み出した。また、東京ビッグサイトで開催された「地盤技術フォーラム2024」にも参加し、日本の最先端の地盤技術に直接触れる貴重な機会を得た。特に、地盤の液状化対策や災害に強い基礎整備に関する技術が紹介され、アジア全体で共通する課題に対する解決策のヒントが提供された。このフォーラムへの参加は、グループ活動における議論をさらに活発化させ、技術的な解決策の具体化を後押しするものとなった。

さらに、特別講演もプログラムの一環として行われ、学生たちはアジア各国におけるインフラ整備の現状や課題について理解を深めた。講演では、災害に強いインフラの設計や、持続可能な都市づくりに向けた新たなアプローチが紹介され、特に気候変動に対応したインフラ整備の必要性が強調された。これにより、学生たちは理論だけでなく、現実の問題に直面する実務的な視点を獲得することができた。

加えて、参加者は10のグループに分かれて活動を展開し、「アジアにおける強靱なインフラと持続可能性」をテーマに討議を行った。各グループは、日本や台湾の地震対策、インドネシアやタイの洪水対策など、各国のインフラ技術や防災対策に関する議論を行い、それぞれの技術的知見を持ち寄り、問題解決に向けた多様な視点を統合した。こうした討議は、各国の技術的違いを理解し、異なるアプローチを融合させる能力を養う上で重要な役割を果たした。

最終発表会では、各グループが学んだ成果をもとに独創的なアイデアや解決策を提案した。アジア全体におけるインフラの相互連携や災害対策の強化に向けた提案が多く見られ、参加者全員がアジアにおけるインフラ強靱性と持続可能性に対する理解を深める機会となった。学生たちは自国の技術や知識を他国の参加者と共有し、新たな学びを得たことで、地域を超えた協力の重要性を再認識した。

今回のグローバルPBLは、技術的知見の共有にとどまらず、異なる国や文化背景を持つ参加者同士が協働し、国際的な課題に対する新たな視点を獲得するための貴重な機会であった。参加者は、アジア地域におけるインフラの強靱性と持続可能性の重要性を再確認し、この経験を今後の学びやキャリアに活かすことが期待される。



図2 聴講中の学生



図3 グループ活動の様子



図4 フォーラム参加の様子



図5 異文化交流の様子



図6 軽食会の様子



図7 最終発表中の学生